

# ジャンル別音楽史の本

——所蔵資料の中からご紹介します——

## ～鍵盤音楽～

F.E.カービー著 千蔵八郎訳

### 鍵盤音楽の歴史

(全音楽譜出版社, 1979)

U01-343, WR00-991

- 第1章 鍵盤楽器 その歴史と構造
- 第2章 16世紀末までの鍵盤楽器音楽
- 第3章 17世紀
- 第4章 ヨハン・セバスティアン・バッハ
- 第5章 バロックから古典派へ(1720年頃～1790年頃)
- 第6章 ハイドン、モーツァルト、ベートーヴェンおよび  
同時代の作曲家たち
- 第7章 19世紀初期
- 第8章 リスト、ブラームスとその時代
- 第9章 19世紀後期
- 第10章 20世紀の鍵盤楽器音楽:フランスとドイツ
- 第11章 20世紀の鍵盤楽器音楽:その他の諸国
- 参考文献



## ～管弦楽～

大崎滋生著

### 文化としてのシンフォニー I、II

(平凡社, 2005-)

I : WR04-560, II : WR05-143

#### I.

- 序章 「シンフォニー文化」
- 第1部 18世紀のシンフォニー
  - 第1章 シンフォニーの起源
  - 第2章 シンフォニアの流出
  - 第3章 シンフォニアの隆盛—ドイツ
  - 第4章 ヴィーン
  - 第5章 シンフォニーの拡大
  - 第6章 ハイドンは「交響曲の父」か?
  - 第7章 シンフォニアからドイツのシンフォニーへ
- 第2部 19世紀のシンフォニー その1
  - 第1章 シンフォニーの転換とシンフォニー意識
  - 第2章 シンフォニーの美学とナショナリズム
  - 第3章 ベートーヴェンのシンフォニー
  - 第4章 ドイツ・シンフォニーの時代の到来
  - 第5章 メンデルスゾーン/シューマンとその世代

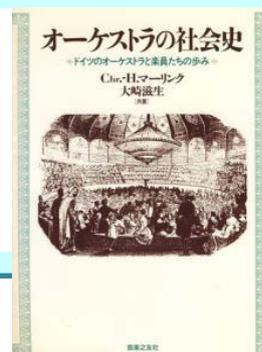


#### II.

- 第3部 19世紀のシンフォニー その2
  - 第1章 1848/49年革命までの時期の  
新しい胎動
  - 第2章 メンデルスゾーン/シューマン  
の精神的息子たち
  - 第3章 ドイツ・シンフォニーの二つの  
頂点——ブラームスとブルックナー
  - 第4章 ナショナル・シンフォニーの展開
  - 第5章 19世紀終盤のフランスにおけるシンフォニー
  - 第6章 シンフォニー文化の重要問題
  - 第7章 世紀末ドイツ——マーラーとR.シュトラウス



Chr.-H.マーリンク、大崎滋生共著  
**オーケストラの社会史**  
(音楽之友社, 1990)  
WR00-862



## 序章

### 第1部 オーケストラ

#### 第1章 社会的基盤から見たオーケストラ

##### 第1節 宮廷のオーケストラ

##### 第2節 その他のオーケストラ

#### 第2章 オーケストラの構成

##### 第1節 現有人員と編成

##### 第2節 オーケストラの組織

##### 第3節 楽器と演奏法

#### 第3章 オーケストラでの共同作業

##### 第1節 指揮系統: 楽長——コンサート・マスター——音楽監督

##### 第2節 オーケストラの規律

##### 第3節 音合わせ

##### 第4節 練習

##### 第5節 本番

#### 第4章 オーケストラのための空間とその位置

### 第2部 職業としてのオーケストラ楽員

#### 第1章 オーケストラ楽員への道

##### 第1節 出身階層

##### 第2節 オーケストラに採用されるための前提・教育——知識——年齢

##### 第3節 オーケストラへの入団

##### 第4節 入団と解職

#### 第2章 待遇

##### 第1節 固定雇用の場合

##### 第2節 副業からの収入

##### 第3節 養老年金

##### 第4節 給与と生活水準

##### 第5節 社会的地位

#### 終章 展望

ウルズラ・フォン・ラウフハウプト編 渡辺護訳  
**交響曲の世界**  
 (鶴書房, 1973)  
 U00-750

【序説】

交響曲・演奏会・聴衆

【音楽生活の中の交響曲】

演奏会用ホール  
 <大演奏会>その成立・形式・プログラム  
 管弦楽  
 指揮者  
 音楽批評  
 出版  
 放送  
 レコード  
 ステレオ録音(ひとつの事例による論述)

【交響曲】

音楽と交響曲の歴史 1730年から1930年までの概観  
 交響曲の歴史的概観  
 <シンフォニア>という名称と<シンフォニー(交響曲)>という曲種

【ウィーン古典派から20世紀初頭までの交響曲】

古典派の交響曲の背景  
 宮廷芸術と委託芸術:ヨーゼフ・ハイドンとヴォルフガング・アマデウス・モーツァルト  
 自由な芸術家:ルードヴィヒ・ヴァン・ベートーヴェン  
 ドイツ・ロマン派音楽における詩と音響:フランツ・シューベルト、フェリクス・メンデルスゾーン=バルトルディ、ローベルト・シューマン  
 伝統との戦い:ヨハンネス・ブラームス  
 伝統と新ドイツ派との間で:アントン・ブルックナー  
 未来への言葉:グスタフ・マーラー  
 標題交響曲:エクトル・ベルリオーズ、フランツ・リスト、リヒャルト・シュトラウス、音楽における音楽外的なもの

【世界の中の交響曲】

イギリスにおける交響曲  
 フランスにおける交響曲  
 チェコスロヴァキアおよびその他の東欧諸国における交響曲  
 19世紀におけるロシアの交響的音楽  
 北欧諸国における交響曲  
 アメリカ合衆国における交響曲作曲家と交響演奏会

【日本における交響曲】

日本における交響演奏会と交響作曲家

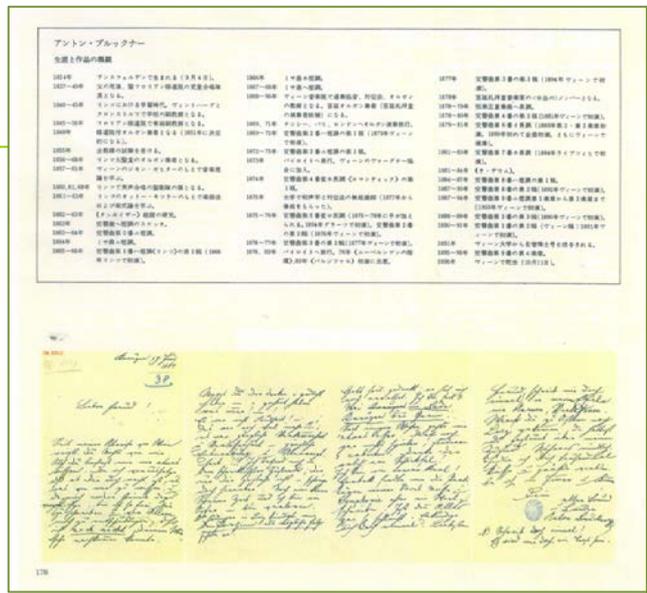
【20世紀における交響曲】

ソナタ形式とアレアトリック(偶然性)の間で

【現代の観点】

交響曲、その聴き手と演奏者 形式の制度化と再生機構の制度化

【付録】



## ～室内楽～

中村孝義著  
**室内楽の歴史 音による対話の可能性を求めて**  
(東京書籍, 1994)  
WR02-309, WR91-480 (富)



- 第1章 生气と思考の自由さ、彫琢と芸術(わざ)
- 第2章 雅びな響きと知的な仕掛け——バロックの世界
- 第3章 仮象の世界から現実の世界へ——バロックから古典派へ
- 第4章 精神の愉悦と内面の凝視——ヴィーン古典派の室内楽
- 第5章 見果てぬ夢——古典派からロマン派へ
- 第6章 愛と夢と憧憬とほの暗き情念の世界——ロマン派の室内楽
- 第7章 エスプリとクラルテ——フランス近代の室内楽
- 第8章 民族的感情の集約的表明——国民楽派の室内楽
- 第9章 混沌から新秩序へ——19世紀末から新世紀へ
- 第10章 現代の諸相
- 補章 室内楽の演奏——名盤案内

## ～宗教音楽全般～

佐々木しのぶ, 佐々木悠著  
**キリスト教音楽への招待：聖なる空間に響く音楽**  
(教文館, 2012)  
WR05-966

キリスト教音楽への招待  
聖なる空間に響く音楽  
佐々木しのぶ 佐々木悠



- 第1章 キリスト教とその音楽の歴史
1. 古代の音楽
  2. ローマ・カトリック教会時代の音楽
  3. 宗教改革時代の音楽
  4. 教会音楽のバロック期
  5. バッハの音楽
  6. バッハ以降の教会音楽
  7. 20世紀の教会音楽

- 第2章 キリスト教会の歌
1. 『聖書』の歌
  2. 中世教会の歌
  3. 讃美歌

- 第3章 キリスト教会における儀式
1. 儀式の歴史
  2. 聖務日課
  3. 教会暦

- 第4章 聖なる空間とオルガン
1. 教会建築の歴史
  2. オルガンの歴史

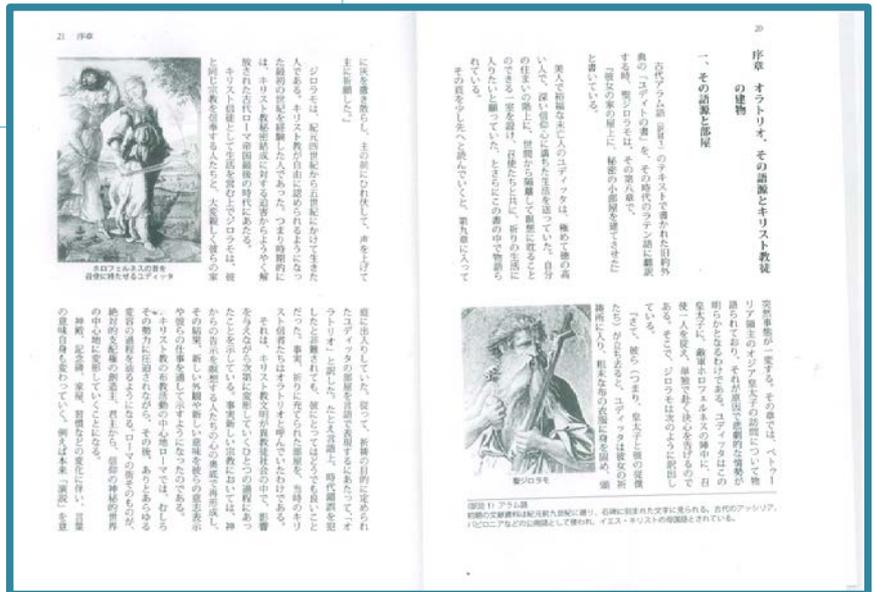
付録 早わかり教会音楽史

～オラトリオ～

リーノ・ビヤンキ著 松本康子訳  
**オラトリオの起源と歴史 カリッシミ、ストラデッラ、A. スカルラッティ**  
 (河合楽器製作所・出版部, 2005)  
 WR04-539

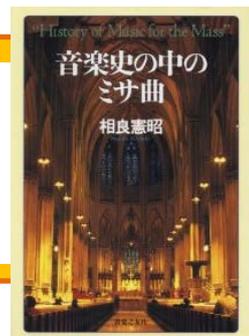


- 序章 オラトリオ、その語源とキリスト教徒の建物
- 第1章 十字架上のキリスト会のオラトリオ
- 第2章 ジャコモ・カリッシミ
- 第3章 ジャコモ・カリッシミのオラトリオ
- 第4章 アレッサンドロ・ストラデッラ



～ミサ・レクイエム～

相良憲昭著  
**音楽史の中のミサ曲**  
 (音楽之友社, 1993)  
 WR01-968, WR91-282 (富)



- I カトリック教会のミサ典礼
  - ① ミサの歴史
  - ② ミサの外見
  - ③ ミサの形式
  - ④ ミサの式次第
- II ミサ曲の歴史と作品
  - ① 単旋律ミサ曲の時代
  - ② 初期多声音楽のミサ
  - ③ ルネサンス時代のミサ曲
  - ④ バロック時代のミサ曲
  - ⑤ 古典派音楽のミサ曲
  - ⑥ ロマン派時代のミサ曲
  - ⑦ 現代のミサ曲

井上太郎著  
**レクイエムの歴史 死と音楽との対話**  
(平凡社, 1999)  
WR03-270, WR92-091 (富)



- 第1章 グレゴリオ聖歌とレクイエム
- 第2章 「死を想え(メメント・モリ)」の世紀に
- 第3章 ルネサンスとレクイエム
- 第4章 バロック的レクイエムの諸相(1)
- 第5章 バロック的レクイエムの諸相(2)
- 第6章 劇的レクイエムの出現
- 第7章 革命と葬送の構図
- 第8章 ロマン主義における死の位相
- 第9章 19世紀末フランスのレクイエム
- 第10章 多様化する「死への想念」
- 第11章 20世紀のレクイエム(1)
- 第12章 20世紀のレクイエム(2)
- 第13章 20世紀のレクイエム(3)
- 第14章 日本人とレクイエム





永竹由幸著  
**痛快!オペラ学**  
(集英社, 2001)  
WS01-820



オペラがいま、なぜ必要なんでしょう？

- 第1章 オペラは禁じられた愛の化身
- 第2章 歪んだ真珠
- 第3章 オペラを育てた“パトロン”たち
- 第4章 アマデウス、その愛その真実
- 第5章 モーツァルトの生まれ変わりを自任した男
- 第6章 ロマン主義で夢うつつ
- 第7章 黄金の翼に乗って<ヴェルディPart-1>
- 第8章 女心の唄<ヴェルディPart-2>
- 第9章 内なる「わが闘争」
- 第10章 《カルメン》はオペラではない！
- 第11章 大衆の味方
- 第12章 「20世紀オペラ」という名のオペラ？

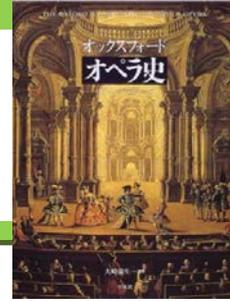


ミヒャエル・ヴァルター著 小山田豊訳  
**オペラハウスは狂気の館：19世紀オペラの社会史**  
(春秋社, 2000)  
WR03-582, WR92-312(富)



- 序章
- 第1章 イタリア——スタジオ・ネとインプレサリオ
- 第2章 フランス——パリとオペラ座
- 第3章 ドイツ——宮廷歌劇場と市立劇場
- 第4章 台本作家
- 第5章 オペラ歌手
- 第6章 オペラ作曲家
- 第7章 著作権
- 第8章 「作品」の概念と著作権、そして契約の形態
- 第9章 オペラと政治
- 第10章 検閲とオペラ
- 第11章 オペラの観客

ロジャー・パーカー編 大崎滋生監訳  
**オックスフォードオペラ史**  
 (平凡社, 1999)  
 WS01-625, WS90-335 (富)



- 第1章 17世紀
- 第2章 18世紀: シーリアス・オペラ
- 第3章 18世紀: コミック・オペラ
- 第4章 19世紀: フランス
- 第5章 19世紀: イタリア
- 第6章 19世紀: ドイツ
- 第7章 1900年までのロシア、チェコ、ポーランド、ハンガリーのオペラ
- 第8章 20世紀: 1945年まで
- 第9章 20世紀: 1945年より現在まで
- 第10章 オペラの舞台作り
- 第11章 オペラ歌手
- 第12章 社会的催しとしてのオペラ

さらに詳しく学びたい人々のために  
 年表



戸口幸策著  
**オペラの誕生**  
 (東京書籍, 1995)  
 WR02-511



日本人による初めての初級オペラの歴史  
 モンテヴェルディからモーツァルトへと  
 ヨーロッパ文化の精華である総合芸術に  
 成長を遂げた初期オペラの自己変革の歴史!  
 東京書籍

- 第1章 オペラとは——オペラ概念
- 第2章 前史——オペラに至る長い道
  - 古代
  - 中世
  - ルネサンス
- 第3章 フィレンツェ——ギリシャ悲劇の復興運動
- 第4章 マンドヴァー——モンテヴェルディの初期のオペラ
- 第5章 ローマ——バルベリーニ劇場のオペラ
- 第6章 ヴェネツィア——市民オペラの展開
- 第7章 ナポリ——オペラ・セーリアの饗宴
- 第8章 改革——グルックへの道
- 第9章 ドイツ——民族オペラの興隆と没落
- 第10章 フランス——音楽悲劇の成立と発展
  - 17世紀——カンパールとリュリ
  - 18世紀——ラモとグルック

- 第11章 イギリス——民族オペラからイタリア・オペラへ
  - 17世紀——パーセル
  - 18世紀——ヘンデル
- 第12章 イタリアの喜歌劇——オペラ・ブッフアとインテルメッツ
  - 初期の喜歌劇
  - オペラ・ブッフアとインテルメッツ
- 第13章 イタリア以外の喜歌劇——オペラ・コミック、ジングシュピール
  - フランス——オペラ・コミック
  - イギリス——バラド・オペラ
  - ドイツ・オーストリア——ジングシュピール
  - スペイン——サルスエーラとトナディッリャ
- 第14章 ハイドン、モーツァルト——18世紀の頂点
  - ハイドン
  - モーツァルト
- 第15章 19世紀への歩み——新しい時代に向けて

レズリイ・オーリイ著 加納泰訳  
**世界オペラ史**  
(東京音楽社, 1991)  
WR01-357

- 第1章 イタリアにおけるオペラの誕生
- 第2章 モンテヴェルディとイタリアのオペラ
- 第3章 フランスのオペラ——リュリイからフランス革命期まで
- 第4章 イギリスのオペラ——パーセルからアーンまで
- 第5章 1700年代のオペラ・セリア——宮廷のオペラ
- 第6章 1700年代におけるコミック・オペラ
- 第7章 モーツァルトのオペラ
- 第8章 フランス革命後のフランス、イタリア、ドイツのオペラ
- 第9章 1800年代の中期から後期にかけてのイタリアとフランスのオペラ
- 第10章 ヴァーグナーと彼の楽劇
- 第11章 イギリス、スペイン、スウェーデン及び東ヨーロッパ諸国のオペラ——民族主義
- 第12章 ”新世界”(南中北米諸国)のオペラ
- 第13章 オペレッタとミュージカル・コメディとミュージカル
- 第14章 1800年代から1970年代までの世界のオペラ

## ～独唱・合唱～

ヴァルター・ヴィオーラ著 石井不二雄訳  
**ドイツ・リート**の歴史と美学  
(音楽之友社, 1973)  
U01-185, U01-186

- 第Ⅰ部 ジャンルとしてのリート——その体系的考察
  - I 各種のリートと「リート」の定義
  - II リートの基本形式——単純な有節リート
  - III 音楽による拡大の諸形式
  - IV 中心領域への一般概念の限定——“le lied”
  - V ジャンルの境界と周辺——比喩的な意味における「リート」
- 第Ⅱ部 ドイツ・リートのジャンル史
  - I 歴史経過の構成
  - II アルベルトからライヒャルトに至る芸術性のない芸術リート
  - III ロマン主義リート作品における民衆伝統との結び付き
  - IV フランツ・シューベルトにおける超有節的形成
  - V フーゲー・ヴォルフにおけるリート・ジャンルの完全性

アーサー・ジェイコブズ編 平田勝, 松平陽子共著  
**合唱音楽：その歴史と作品**  
(全音楽譜出版社, 1980)  
U00-438

- 一 中世後期の聖歌隊と民衆
- 二 オケゲムからパレストリーナまで
- 三 チューダー王朝時代とそれ以後のイギリス
- 四 バッハ以前のドイツと北ヨーロッパ
- 五 イタリアとフランスの宮廷音楽
- 六 イギリスの事情——教会と国家
- 七 バッハとその時代
- 八 ヘンデル時代のイギリス
- 九 ウィーン古典派時代
- 十 ヘンデル後のイギリスとアメリカ合衆国
- 十一 フランス革命——ベートーヴェンとベルリオーズ
- 十二 オラトリオとカンタータ市場——イギリス、ドイツ、アメリカ
- 十三 ミサ曲——ロッシーニからドヴォルザークまで
- 十四 合唱と交響曲——
- 十五 スタンフォードからヴォーン・ウィリアムズまでのイギリス
- 十六 スラヴ国民主義音楽——ドヴォルザークからロシアの作曲家まで
- 十七 音楽革命を起こした四人の作曲家
- 十八 フランス——フォーレからドビュッシーまで
- 十九 現代イギリスの作曲家たち
- 二十 種々様々な現代音楽の作曲家たち
- 二十一 二十世紀アメリカの作曲家たち
- 二十二 あとがき